

## 5-7 東海地方の近年の地殻活動

### Recent Crustal Activity in the Tokai Region

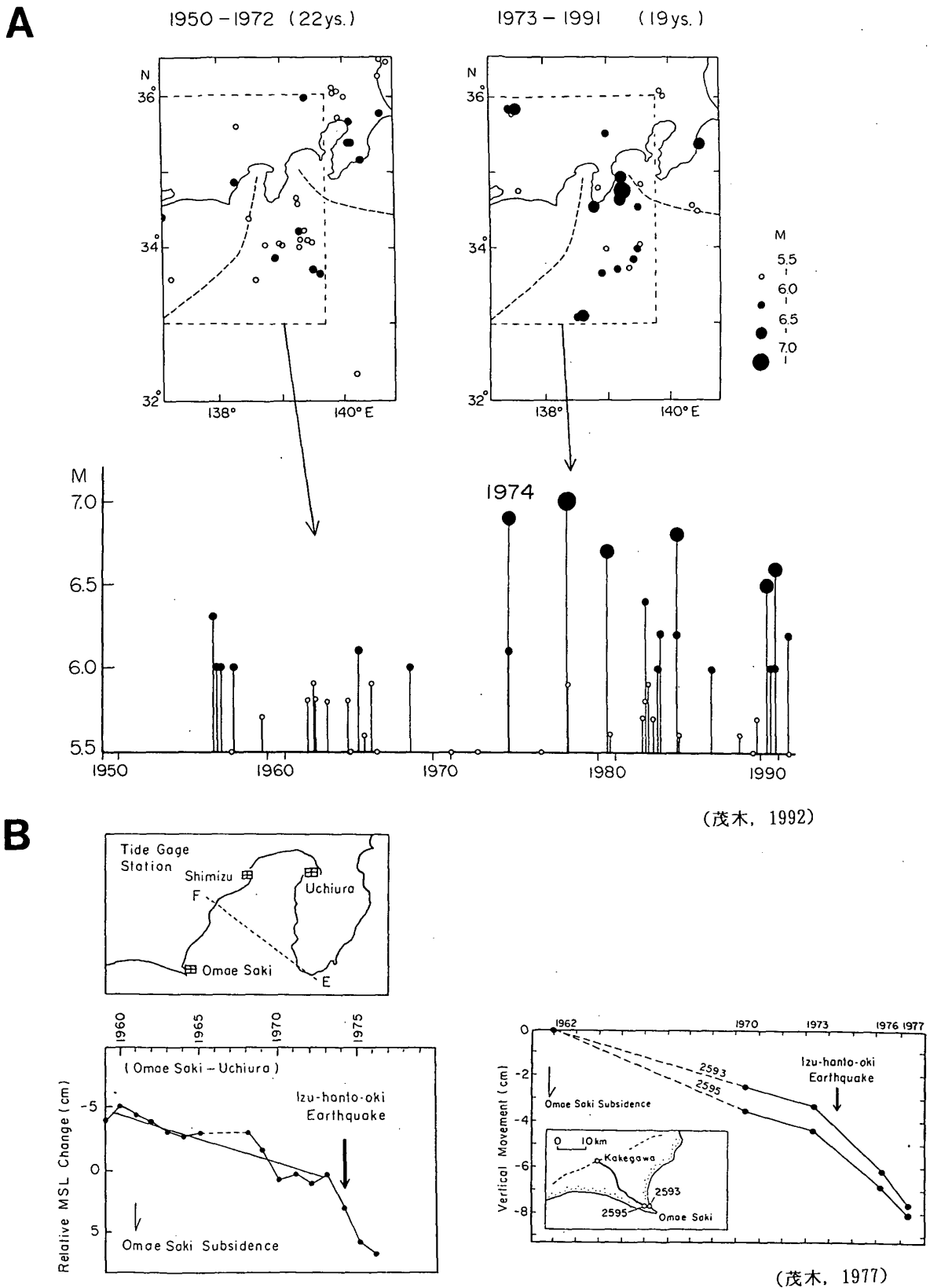
日本大学 茂木清夫

Kiyoo Mogi, Nihon University

前回、東海地方及びその周辺の地震活動に長期的な変化が見られることを報告したが、その結果を第1図Aに示す。1974年の伊豆半島沖地震前後を境にして、地震活動が活発になったと見られる。今回は、このような地震活動の変化に対応して御前崎の沈降速度に変化が見られることについて述べる。1974年の伊豆半島沖地震の頃に御前崎の沈降速度が大きくなったという可能性については、茂木(1977)で論じているが(第1図B)、その後の資料について検討した。第2図Aは水準測量、同図Bは潮位による御前崎(Aでは駿河湾西岸を含む)の沈降曲線を時間軸をそろえて示したが、1974年頃に沈降速度が増大したことが共通して認められる。第3図は御前崎一内浦間の潮位差の年平均値にもとづく曲線であるが、1974年頃から御前崎の沈降速度が大きくなっていることがわかる。特に、伊豆半島内で起こったM7前後の2つの地震、即ち1974年伊豆半島沖地震と1978年伊豆大島近海地震の時期に沈降が加速したことが注目される。これらの地震の際には伊豆半島内で東西方向伸長の地殻変位があったので、これが駿河トラフでのサブダクションを加速させ、御前崎の沈降速度を増加させたと解釈される。

#### 参 考 文 献

- 加藤 照之・津村建四朗(1979)：地震研究所彙報，54，559-628。  
国土地理院(1991)：連絡会報，45，301-326。  
茂木 清夫(1977)：地震研究所彙報，52，315-331  
茂木 清夫(1992)：連絡会報，47，254-256。

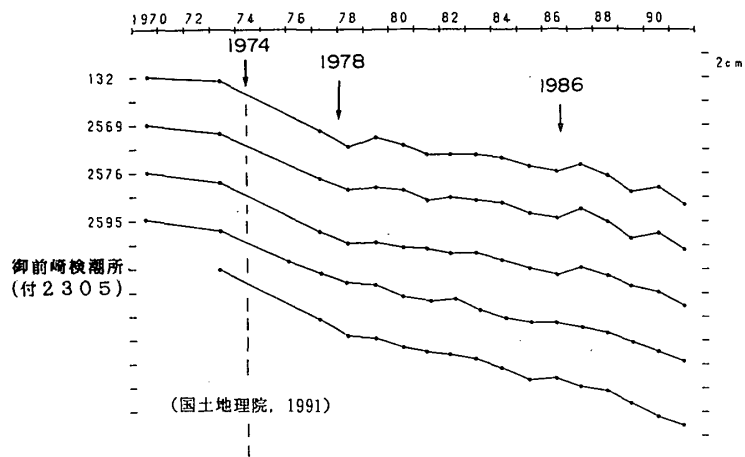
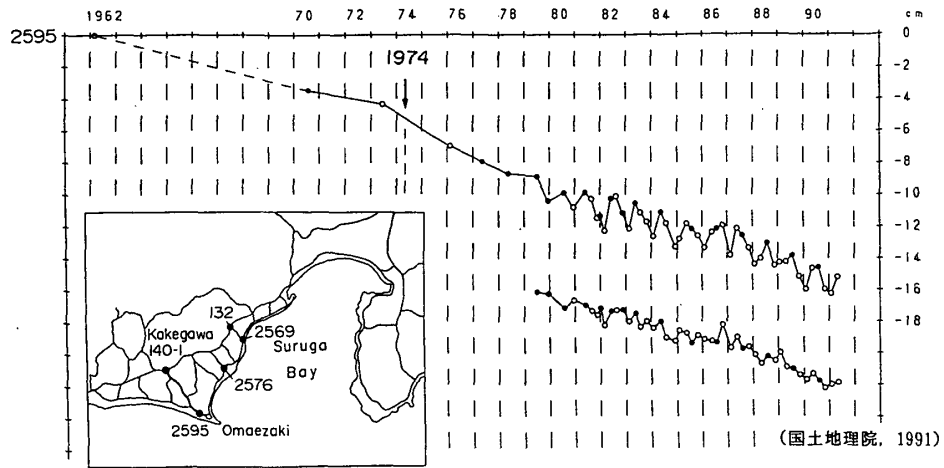


第 1 図 A : 東海地方及びその周辺の地震活動の時間的変化。  
B : 1974年伊豆半島沖地震前後の御前崎の沈降曲線。

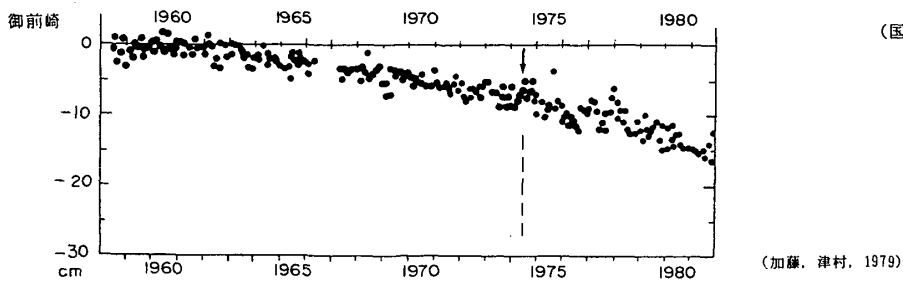
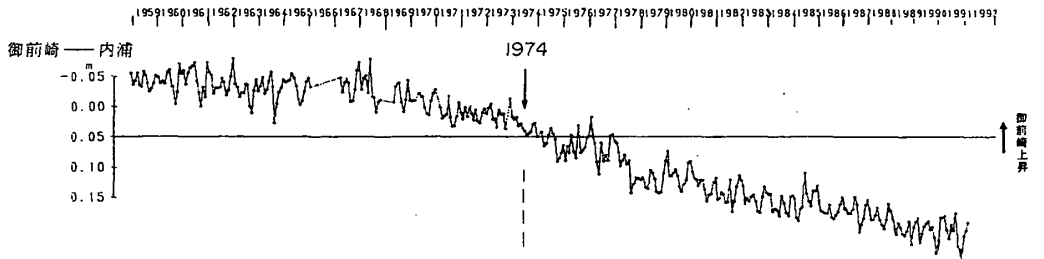
Fig. 1 A: Temporal variation of seismic activity in and around the Tokai region. B: Relative vertical movements at Omae Saki (or Omaezaki) obtained by tide level observations and levelling surveys before and after the 1974 Izu-hanto-oki earthquake.

**A** 水準測量

基準：140-1



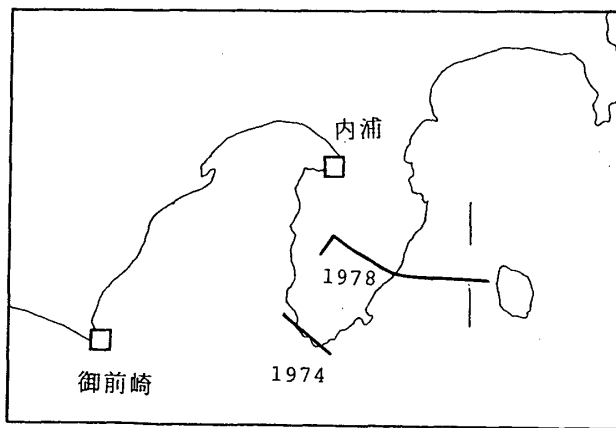
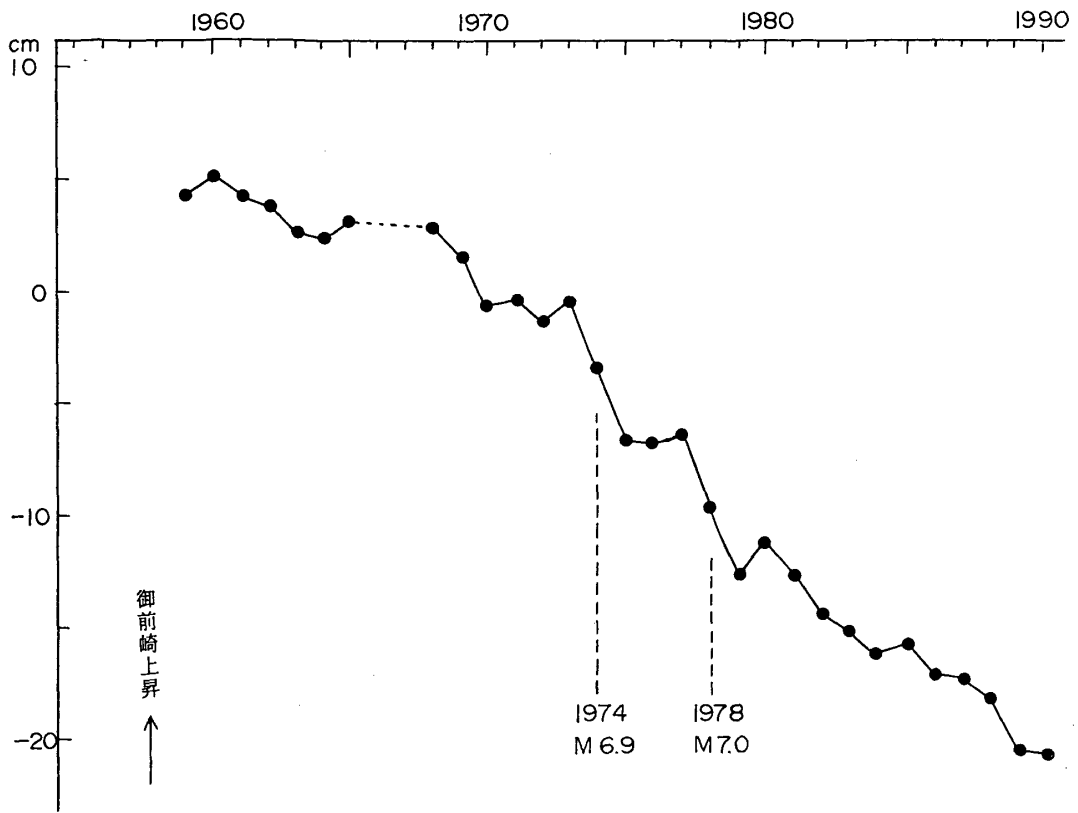
**B** 潮位



第2図 水準測量 (A) 及び潮位観測 (B) によって得られた御前崎 (駿河湾西岸を含む) の沈降曲線。

Fig. 2 Relative vertical movements at Omazeki obtained by levelling surveys (A) and tide level observations (B).

潮位 御前崎—内浦



第3図 年平均潮位差から推定される御前崎の沈降曲線とM7級の伊豆半島の地震。

Fig. 3 Relative vertical movements at Omaezaki tide station deduced from the annual mean sea level and their relation to the M7-class earthquakes in the Izu Peninsula.